

## 追悼

# 江頭 由太郎先生 追悼文

大阪医科大学 病理学教室 助教

芥川 寛

新元号令和が発表される直前の平成31年3月29日夜に、病理学教室准教授・江頭由太郎先生が急逝されました。私が病理学を学ぶきっかけをくれた江頭先生は私の恩師であると同時に、約18年間、公私にわたりお世話になった親父であり、兄貴でもありました。亡くなる3日前にも2人でディスカッション顕微鏡を覗き込み、「あーだ、こーだ」と言いながら溜まっている病理診断を片付け、他愛もない会話をしていたのですが、それがあまりにも日常の出来事だったので、今となっては、その時の会話の内容すら思い出せません。なので、備忘録として江頭先生との思い出を少し述べさせて頂こうと思います。

私が本学第二内科学教室に入局した当時、江頭先生は主に消化管のX線透視検査を取り仕切っておられました。その大柄な体型とは裏腹に、X線写真の読影は緻密・細やかで、各疾患に関する見識の広さに驚きました。また、

慈恵会医科大学への国内留学で病理を学んで帰られた後で、消化器検体の病理診断もしておられました。私が研修を終え関連病院へ出向していた時期に、江頭先生が第二内科学教室から第一病理学教室に移られたのですが、私が出向を終える頃に江頭先生から「第一病理で学位の仕事をしていないか」とお誘いを受け、第一病理学教室で御指導頂く事となりました。当時、江頭先生は消化管病理医として頭角を現し始めた頃で、その後、正に飛竜乗雲で全国的にその名の知られる所となるのですが、そのような時期に仕事をご一緒出来た事が私にとって非常に勉強となりました。江頭先生はマクロ(肉眼)所見とミクロ(組織)所見の対比を最も重要なテーマにしておられました。ご自身が消化器内科医、消化器内視鏡医でもあったので、先生の病理診断・所見では臨床医が知りたい事柄が簡潔に分かりやすく述べられていました。ですので、先生の診断は本学第二内科学教室の医師だけでなく、本学以外



平成17年11月「中田勝次名誉教授の傘寿をお祝いする会」にて  
写真左より、黒川晃夫先生(現皮膚科学教室准教授)、江頭由太郎先生、私、竹下篤先生(現病理学教室講師)

の多くの消化器内科医から広く支持されていました。

江頭先生の仕事のスタイルは、先生が愛好された競馬で言うところの「指し馬」スタイルでした。診断業務に加え、早期胃癌研究会をはじめとする多数の研究会の運営委員や幹事を務め、多くの執筆依頼を抱えていたのですが、先生の部屋の電話が鳴る時は少なからず原稿の催促で、「また、締め切りが過ぎてるねん。」といつも笑っておられました。私や大学院生との学会発表の準備では、学会直前に連日徹夜でポスターを完成させるのが恒例でした。大変だった徹夜も今となっては良い思い出です。

現在の卒後研修制度が始まる以前は、一般・消化器外科学教室の研修医が1人ずつローテーションで第一病理学教室に来て病理を学んでいました。彼等には一般・消化器外科の手術標本の診断に加え、必ず守るべき2つのdutyがありました(むしろ、診断よりも大事なdutyでした)。1つは全ての病理解剖に副執刀医として加わる事で、もう1つは江頭先生との昼食でした。昼食ではテーブルに乗りきらない程の料理が注文されるので、私も外科の研修

医も腹がはち切れそうになっていました。そして、彼等は病理の知識だけでなく、体重を増やして病理学教室での研修を終えるのが常でした。江頭先生が10年程前に体調を崩されたので、最近は普通の昼食となったのですが、当時の外科の研修医からは「今でも同じような昼食ですか?」と聞かれる事があり、江頭先生との昼食は彼等にとって強烈な思い出(トラウマ)のようです。江頭先生には消化管病理医としての業績の他、そのファッション、愛車のハーレーダビッドソン、音楽や映画、ギャンブルなど逸話に事欠かないのですが、述べると限りがないので、この辺りで筆をおかさせていただきます。

私は来年に50歳になるのですが、天命を知らないどころか未だに惑ってばかりです。江頭先生という羅針盤を失ったショックは計り知れないのですが、江頭先生からの学びを生かし精進したいと思います。最近、御指導頂いた先生方の訃報にしばしば接し、気落ちする事が多いのですが、天国で江頭先生が他の逝去された先生方と雀卓を囲んだり、大好きな焼き肉を食べたりしているのでは、などと想像すると少し可笑しくもあり、多少寂しさが紛れます。

#### 江頭 由太郎先生 ご略歴

昭和 35年 9月13日	生まれ
昭和 62年 3月	大阪医科大学卒業
昭和 62年 5月	大阪医科大学附属病院 第二内科学教室入局
平成 元年 6月	大阪医科大学 専攻医(第二内科学教室)
平成 3年 7月	東京慈恵会医科大学 専攻医(第一病理学教室)
平成 5年 6月	東京慈恵会医科大学 専攻医 辞退
平成 8年 4月	大阪医科大学 非常勤講師(第一病理学教室)
平成 9年 4月	大阪医科大学 助手(第二内科学教室)
平成 10年 4月	大阪医科大学 講師(第一病理学教室)
平成 14年 2月	大阪医科大学 准教授(第一病理学教室)
平成 20年 4月	大阪医科大学 准教授(病理学教室、教室統合による変更)
平成 31年 3月29日	逝去 享年58歳